

H-11 熊野古道伊勢路

【山行日】2022年9月21日

【CL】3240 【参加者】421, 1338, 2091, 2131, 2196, 2693, 3008, 3142, 3155, 3172, 3210, 3252, 3370
3476, 3499, 3655, 3787, 3800

【コース】熊野古道センター⇒八鬼山登山口 10:05・・・荒神堂・・・13:00 八鬼山山頂 13:10・・・
13:20 さくらの森 14:00・・・十五郎茶屋跡・・・16:15 三木里ビーチ (距離：約9km)

熊野古道伊勢路もいよいよ西国一の難所、八鬼山(やきやま)越えです。前日までの強くて大型の台風の通過で気を揉みましたが、当日はなんと青空！ 幸運な山行の始まりでした。

登山口からしばらく歩くと、苔むした石畳の街道が始まります。そして行き倒れ巡礼供養碑の横を通り過ぎます。江戸時代、この街道を歩き抜くことは大変な難儀だったのでしょうか。



その先は籠立場。紀州の殿様が通過するとき、休んだところです。このあたりから坂が急になります。見事に敷き詰められた石畳の道は、先人たちの道づくりの工夫と苦心の跡が伝わってきます。ここは日本でも有数の豪雨地帯で、道を守るには石畳が必要だったのです。鬱蒼とした木々の間を通る苔むした石畳は、これぞ世界遺産熊野古道という雰囲気包まれています。木々や苔に浄化された空気を吸い込み、気持ちもゆったりしてきます。そこを転ばぬよう、ゆっくりと慎重に歩いて

いきます。

そして八鬼山越えの中でも一番の難所、七曲りを登ります。難所ですが、ふわくの元気な“高齢者”は全員余裕で登りました。さすがです。西国三十三カ所第一番札所の前札所である荒神堂を過ぎると、まもなく標高647mの八鬼山山頂に登頂です。大きな石がごろんとして、見晴らしもありませんが、頂上での記念撮影となりました。

頂上を過ぎるとさくらの森に出ます。広々とした広場で、青空の下に広がる熊野灘と、それを囲む紀伊の山並の景色に見とれてしまいます。伊勢路でも屈指の絶景ポイントと言われています。東屋もあり、ここで昼食としました。



残りの道は下り坂です。石畳の上に、落ち葉が厚くかぶさっています。登りには落ち葉はありませんでしたが、こちらは落ち葉が多く、木が広葉樹に変わったことがわかります。滑りやすいので、足元を確かめながら降りていきます。十五郎茶屋跡で一休みしました。かつての旅人は、この先の急坂に備えて休んだようです。その坂を降りると、ゴールの三木里ビーチは間もなくです。

この道を造った先人、そこを歩いた人々の歴史を思いながら、これぞ熊野古道という街道を満喫できた山行でした。(3240)